

野菜の発芽

富谷町志戸田三ヶ森1 永澤義人

シソの種まき

1 はじめに

百姓の仕事も23年になります。慣れて上手になり手際がよくなったものもあります。が仕事が粗末になったものもあります。その代表的なものは種まきです。以前とかわりない方法で種まきしているつもりなのですが発芽がむらになってしまうのです。ことに、こまかいタネの発芽がとくにうまくいかないのです。わが畑のシソも10年くらい前に畑に蒔いてそだてたのですがアカシソと交配してアオシソの香りがうすれ、葉が赤がかって、かたくなってきたのです。それで種まきをて新しいシソをそだてようと思っているのです。

たねも結構ねだんがたかいものですからなるべく、タネの袋に書いてある発芽率にちかづけたいのです。袋には発芽率は70パーセント、タネの内容量6mlとかいてあります。20mlで9,500個の種があるのですから6mlで大体で3000として、その70%で2100本発芽するわけですから、そんなにシソの苗はいらないのですがとにかく多く発芽させたいのです。

2 苗床をつくる シソの発芽には光が必要な植物です。

苗を育成させるには苗床が必要です。苗床はていねいにたがやします。

ア 苗床の大きさ

苗床の大きさを決めます。シソの苗床は縦80cm 横2mにします。縦はわきにおいて手を伸ばして除草や肥料まきなどの手入れができる長さにしたいのです。

イ 絶え床の広さをしっかり決める

苗床の広さを80cmかける2mとしたならば、4本の棒を打って、縄で四角に囲みます。ここが苗床だと耕作者の永澤さんにはっきりと教えるのです。

ウ 耕す

まずスコップで丁寧に耕します。深さ30cm土にさしこんで掘っていきます。つぎに三角の除草鍬で土をこなします。かたまつた土はくたきます。

軍手をかけた両手で土をなでていきます。石、小枝・根など土以外をよります。

目が3cmくらいのふるいにかけてじゃまものをとりさります。

最後にて軍手をかけたてで丁寧にすっかり平らになでます。

エ たねをまくすじをつける

60cmの床に20cmの株間になるようにビンの底で跡をつけます。

80cmですから 20cmおきにすると2本のすじができます。

オ たねをまきます。

シソのタネは細かいのです。発芽には空気が必要です。

ひとつの穴に5粒くらいにタネをならべます。

カ タネに5mmの目のふるいで土をうんとうすくかける。空気が通るように

キ 水をたっぷりかける。新聞紙をかける。発芽したら新聞紙をとる。

ク 間引きが大切です。少し大きくなったら苗として植えることもびきます。

ニンジンの栽培

1 ニンジンも発芽に光の好きな植物です。

1) シソと同じで好光性の植物」です。種まきのあとには細かいふるいでうすく土をかけます。発芽が光で促進される植物は652種で抑制されるのは258種だという研究もあります。

2) ニンジンはアフガニスタンが原産地

原産地から東をまわって日本につたわったのが東洋系で金時が有名
西洋を経て日本につたわったのが西洋系5寸とか3寸とか名がついている。

3) タネがうんと小さい。

20m¹の種子数が6000個です。 シソが9000

トマトが1200カボチャが70 サヤエンドウが60

タネが小さいものは吸水性がわるいから播種してから発芽までの水やりが大切
だと言われていますがなぜかわかりません。

ニンジンの栽培は発芽できまると言われています。

2 ニンジンの播種

1) ニンジンの種まきの時期は

6月がもっとも適している。

梅雨で畑に水をまかなくても畑が湿っている。

気温が高くなってくる。

2) 土の管理

ニンジンを植える土地は砂地で排水の良い土地と言われている。

とにかく よく耕しておくこと。土以外の異物をとりのぞくこと。

ふるいを使って同じくらいの粒の土にしておく。

3) 苗床を作る

排水をよくするには畝を高くする。 10cmから15cm

良く耕して土、発芽用の土、市販の砂などを使って種まきの畑をつくる。

80cmの畝幅にします。

準備した土をよく混ぜて、軍手をかけて

土を平らになでる。

板でひとつの畝の蒔きすじを20cmあけてうすく2本つける。

4) たねをまく

うねに板か棒で5mmくらいの深さのまきすじをつける。

その蒔きすじに1センチおきにまっすぐにたねをならべていく。

少しくらい狂ってもいい。面倒くさいです。

5) たねをまいたらその上に細かいふるいで土をかける。日光がかかるくらい

土をかけたら水をたっぷりと 籾殻や新聞紙で覆って乾燥をふせぐ。

6) 発芽するまで水の管理が大切。

7) 間引き、

本葉が2枚になったら 5cmの間隔に間引きをします。

本葉が5枚になったら 10cm間隔に間引く

ニンジン 日本国語大辞典より

セリ科の二年草ヨーロッパ原産と考えられる。日本には中国から伝わり、古くから栽培されている主要な野菜のひとつ。

高さ1mのものもある。

根は肥厚し、倒円筒形で、橙黄色を帯びている。

比較的短根のものと長根のものがある。

葉は長柄をもち羽状複葉で、数回分裂、終裂片は肥針形でふちに鋸歯がある。

夏に多数の白いごく小さな5弁の花が咲く。大きな複数形花序を出す。

果実は3ミリくらいの長楕円形でおおくのつげがある。

根は芳香と甘味があり、食用にされる。また若葉のたべられる。

三寸、滝野川、金時など多数の品種がある。

地方の呼び名

静岡	ギンジン	富山	愛知	ニージン	鳥取	ニジ
岐阜	ニジン	熊本	ネジン		仙台	ネンジン

世界の人参の産出量

1位	中国	1680万トン
2位	ロシア	156万5032トン
3位	アメリカ	134万6080トン
4位	ウズベキスタン	130万トン
5位	ウクライナ	91万5900トン
6位	ポーランド	83万4698トン
7位	トルコ	71万4000トン
8位	モロッコ	70万7316トン
9位	イギリス	66万3700トン
10位	日本	61万9000トン

春夏人参の主要県別収穫量 平成15年 秋人参

徳島	49200トン	北海道	187600トン
千葉	30800トン	青森	12500トン
青森	17000トン	新潟	2440トン
埼玉	9000トン	岩手	2030トン
長崎	7700トン	長野	1960トン

冬人参

千葉	99300トン	長崎	16600トン
茨城	27499トン	鹿児島	20100トン
愛知	24400トン		

宮城県の人参生産量 2012年 1410トン